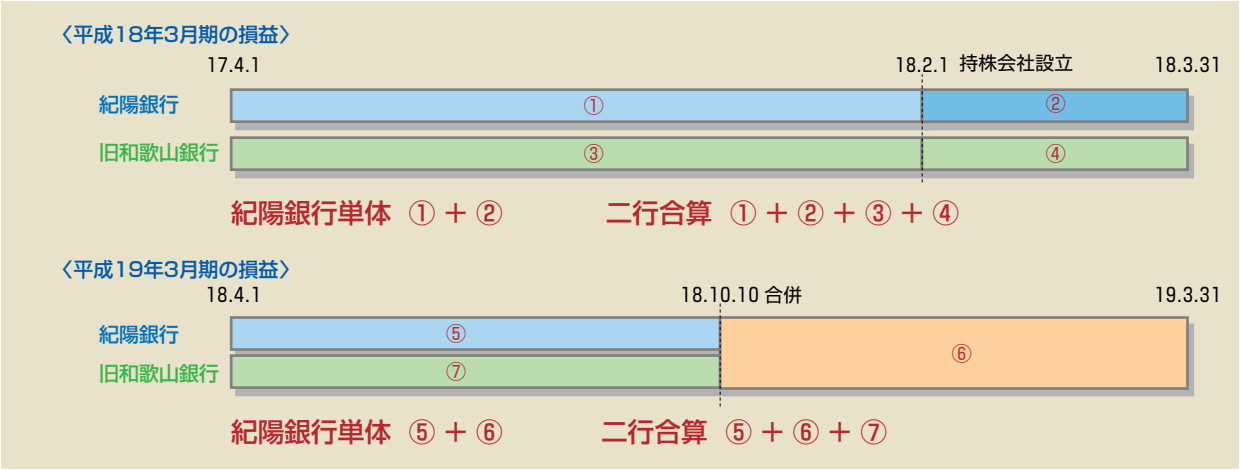
業績ハイライト～紀陽銀行単体～

紀陽銀行と旧和歌山銀行は平成18年10月に合併しており、平成19年3月期および平成18年3月期における紀陽銀行の単体計数は、合併前の旧和歌山銀行の計数が反映されておりません。

このため、前期との比較については、二行合算による計数を用いております。



損益面

（単位:億円）

		平成18年3月期 実績	平成19年3月期 実績	計画	前期比	計画比
業務粗利益		589	553	544	▲36	9
	資金利益	531	507	494	▲24	13
	役務取引等利益	57	64	63	7	1
	その他業務利益	1	▲17	▲13	▲18	▲4
経費（▲）		383	373	377	▲10	▲4
一般貸倒引当金繰入額（▲）	①	▲9	▲14	▲22	▲5	8
業務純益		216	195	189	▲21	6
コア業務利益		197	183	171	▲14	12
臨時損益		▲302	▲101	▲102	201	1
	不良債権処理額（▲） ②	384	110	101	▲274	9
	株式関係損益	75	▲8	3	▲83	▲11
	その他臨時損益	7	17	▲4	10	21
経常利益		▲86	93	87	179	6
特別損益		101	12	▲13	▲89	25
	うち　償却債権取立益 ③	15	41	15	26	26
	うち　固定資産処分損益･減損損失	▲4	▲24	▲28	▲20	4
法人税等調整額（▲）		87	18	16	▲69	2
当期純利益		▲72	84	56	156	28
与信費用（▲）	① ＋ ②	375	95	79	▲280	16
実質与信費用（▲）	① ＋ ② － ③	360	54	64	▲306	▲10

（注）1. 金額は単位未満を切り捨てて表示
2. 計画は「中期経営計画」ベース（以下、同じ）
3. （▲）は損失項目

銀行の本来業務の収益を表すコア業務純益は、前期比14億円減少し、183億円となりました。これは、前期（平成18年3月期）に特殊要因として投資信託解約配当金を受け入れたことに加え、合併前の旧和歌山銀行で貸出金が大幅に減少したことなどにより資金利益が前期比24億円減少したことなどが主な要因であります。一方で、投資信託等預かり資産販売が好調であったことから役務取引等利益が前期比7億円増加したほか、合併による経費削減効果として経費が前期比10億円減少いたしました。

不良債権処理額は、合併後の財務リスクを一掃するため前期に大幅な引当処理を行ったこともあり、前期比274億円減少し101億円となりました。さらに、償却債権取立益が前期を26億円上回り41億円となりました。

これらの結果、経常利益は前期比179億円増加し93億円、当期純利益は前期比156億円増加し84億円となりました。

三段壁（白浜町）

預金等・預かり資産、貸出金

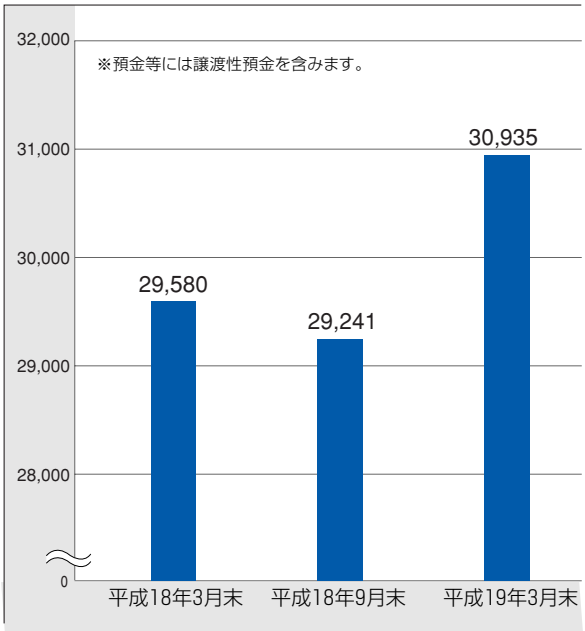
平成18年10月以前は、旧和歌山銀行において大規模な店舗統廃合を控えていたことや合併準備の影響から、預金等および貸出金の残高が減少しておりました。

しかしながら、合併記念定期預金によるキャンペーンや無担保・第三者保証人不要の融資商品の導入とともに、営業人員増員などによりお客さまとの接点を強化したことから、合併後はそれぞれ増加に転じ、預金等は前期末対比1,354億円増加し3兆935億円、貸出金も前期末対比620億円増加し2兆1,114億円となりました。

また、投資信託や国債、個人年金保険など預かり資産販売も、引き続き好調に推移しております。

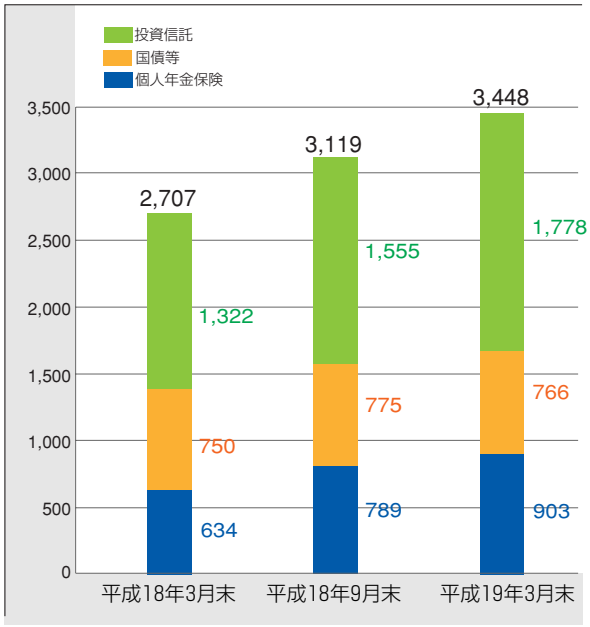
預金等残高の推移

（単位:億円）



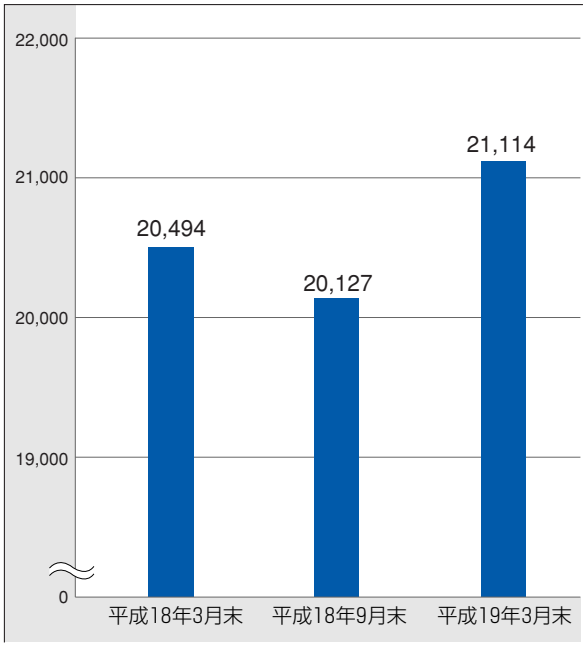
預かり資産残高の推移

（単位:億円）



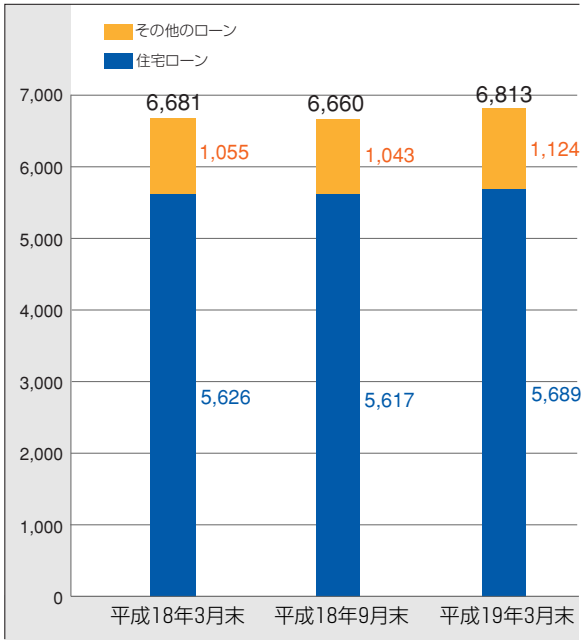
貸出金残高の推移

（単位:億円）



ローン残高の推移

（単位:億円）



※平成18年3月末および平成18年9月末の残高は旧和歌山銀行との合算